京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十五年紀元二千五百七十二年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ケ月前金三十錢▲三ケ月前金九十錢▲六ケ月前金一圓八十錢▲郵税一ケ月十五錢
月曜日及び祭日の翌日は休日（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金十錢▲特別欄特別廣告五號活字十六七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 髙木久馬太
印刷人 松久神一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六六三番振替口座京城四五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

●我輩の新年（三）

温突住人

何んの爲めに來た、考へるまでもないマントを新調したから見せ付けにやつて來たのだ、而も糊張りの暈けは粉が出るに定て居る先づ日蔭町や柳原の堤に行つたら三圓五十錢もだしたら否應なしの代物だ、歸る時の云ひ草が癪で滑稽でしかも哀れだ、曰く僕の宅には餅があるから來給へ、是非來給へ、とチヨツ忌々しい凡俗だ、吾が輩は今さむさと空腹の精神上に及ぼす權威に就ての研究中だ、憐れにもある、彼は人並に餅を買つた事を以て又と無い誇りとして居るのだ。

研究は滅茶苦茶になつた、敢て餅の話を爲たが故にとは信せられないが兎に角空腹の威力によつて寒さに對する苦痛の威は遂に征服されて仕末つた、飯屋に行かねばならぬ、實に殘念だ、王道を出掛けて見ると、敦化門から電車道まで一直線に、而も五六間宛位の間隔をとつて恰度燒木杭でも打つ込むだやうの様にズツト巡査が立つて居る何の事だや。

漸く見て居ると四辻に立つた一巡査が右手を高く差し上げた、すると燒木杭の様なが順次にこれに倣ふ、中々面白いものだ、而し何の事だか薩張り吾が輩には解らなかつたが其疑問は發て研究するまでも無く直ぐに氷解した。

御通過だ……七八騎の騎馬兵が腰間の一物を拔き放つて肩の邊に着けて居る勿論揃いで居るのぢや無い又提げて居るわけでも無い、嘸手がダルくて冷たい事だろうと思つた、こんな事を思つて見惚て居るうちに御本體は御通過濟みになつたので偖何んな御仁體であつたか更に解らない、後方から眤と御見送りして居ると、イヤ實に壯なるものだ劍の閃き金モールの光り、駒の足搔漾々たる砂埃、恰度フキルムの破れた安活動寫眞でよく見る光景其儘だ、しかし次第に遠ざかる憂々たる蹄の音と軋轢たる車輪の響で今朝の挑發的な俗惡な鋼と茶碗の響きを思ひだした。

斯うなると最う迚も辛棒が出來ぬ、へタ〳〵になつた空腹を抱へて飯屋のうちへ飛び込むだ。

人間は馭し易いものだ、吾が輩は然う思ふ何故かと云ふと胃の腑が空になつて居る時と居ない時とは丸で事物に對する觀察が違つて來る様だ、ゴム輪が飛ぶ車夫の足の運びが淡路人形の足の運びを見るやうで馬鹿に面白い、吐く息も、青息吐息と云ふ奴には見ゑないで瀛車や小蒸瀛の煙のやうに見ゑて威勢がイ丶何時もあんな車で右往左往する人達には車夫の吐く息は全く煙筒の煤烟のやうに見ゑてるに違ひない

漢詩

次在故園畑淵詞兄見寄 加藤游濠

壬子元旦之詩

原韻

東風四十五新年。賀正詩成衆帯煙。
華水韓山春一様。謳歌明治太平天。

其一

連綿昭代又加年。萬戸豊饒立竈煙。
更及皇恩松上鶴。蹁遷或舞或朝天。

駐曰此地去歳被禁野鶴之狩獵稱句故及

元日や千代田の松に歌ふ鶴

其二

漢城々下重迎年。快話詞華更吐煙。
新運到來君記取。風流意外太平天。

年立つや白髪もませは智恵もます

松上鶴 河村竹溪

裳立衣皓丸皐會。栖老上林松樹深。
好爵華軒何又顧。翩遷隨意奏清音。

新刊紹介

△銃獵界（七卷十二號） 銃獵錯話を始め獵界に關する記事を網羅し眞に狩獵專門雜誌の名に耻ぢず（横濱市本町二丁目金丸銃砲店一部十二錢）

△法學新報（二十二卷一號） 原法學博士の『民事訴訟の進行に就て』立法學博士の『國際法上に於ける主權國及半主權國の觀念』桑田博士の『經濟と道德の調和』等の論說あり漫錄問答時論觀等法學上に資するものを以て充された（一冊十八錢東京市神田區錦町法學新報社）

△電氣日之本（第一卷一號） 電氣界の機關雜誌として生れしもの苟くも電氣に關する智識を得又斯界の趨勢を知らんと欲するものは本誌を讀め（一冊十二錢東京府下淀橋柏木電氣之日本社）

△家庭之友（正月號） 家庭の研究は人類の盡るまでやまぬ問題にして此實際問題を捉へて研究する本誌新年號は現代婦人の心得可き事を網羅し一さして有益の記事なら可ざるはなく苟も家庭を大切にする婦人に取つては缺くべからざる敎科書として推奬するに足る（一冊郵税共十一錢五厘東京市本郷區東片町新公論社）

△新公論（正月號） 我國今や二大戰役を經て一躍一等國の班に入りしと雖も商工業科學等の諸點に關しては未だ遠く歐米先進國に及ばず國民に確乎たる自信なく恰も五里霧中に彷徨するの狀態にあり此時に當つて本誌は『日本は何を誇るべき乎』と題し朝野名士の意見を徴し以て我國民の自信自覺を喚起せんと欲す名士の重なるは塚越停春安部磯雄黒岩涙香中島德藏福田德藏田男爵肝付中將村上專精稻垣乙丙諸士外十數名萬報一覽は益々其本領を發揮せり（一部本號に限り郵税共四十三錢東京市本郷區東片町新公論社）

●湖南線と論山

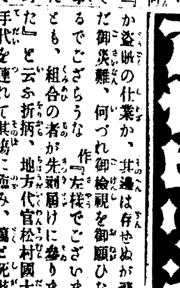
昨年十一月十五日湖南線の開通と共に從來江景群山を經由して諸方に移出せられし論山米は開通即日より鐵路を利用せられて京城或は釜山に輸送せらる丶事となりしより忽ちに論山米の集散地として論山驛の名四方に響き渡り其開發驚くべき速度を示し明治四十年漸く三十人に充たざりし日本人は昨年正月百四十餘人を算したるもの今や戸數九十七在住者二百九十人に倍加し一村一部落を形成するに足る各種の營業は居住內地人によりて殆んど完全し內農事經營者十六人あり殆んど總て小作制を採り中井某の五十餘町歩津村某の三十餘町歩は表面に現はれたる大なるものなり而して目下日人の營業を細別すれば運漕店三旅館四料理店二藥種商二其他陶磁器店新聞賣捌店髮結理髮店大工業等皆小ながら一構へをなし駄菓子屋雜貨店最も多く菊山某の石油發動六馬力籾摺機業は日鮮人の依頼により賃磨をなし殆んど寧日なき有樣なり日人の公共的事業としては學校組合あり現時二十名の兒童を敎育しをれり云々（最近視察者談）

梁川庄八

小金井蘆洲演

第七十三回、

甲『小旦那は何うした』乙『小旦那は居ないやうだ、大分作右衛門の處へ行て泊つて居るのだらうから早く注進しよう』と一人の番頭が跣足で駈出し太息を吐き〳〵飛んで參つて、作左衛門を叩き起し勇吉に對面して此凶報を告げました、道に親子の情親爺が殺されたと聞いて、血相變へて物も云はず庭口から飛び出し我家を指して飛んで歸りまする、作右衛門娘の夫の親父が非業の最期を遂げたと聞きまして日頃は不仲で出入も致さん位でありますが、此の場合樂逝く譯にも參らんので娘と共に飛び出して參りました、所が長左衛門の宅は上へ下への大騒動、勇吉は素跣足の儘に座敷へ飛込んで、突然血潮に塗れて居る父の死骸を抱上て 勇『阿父さんナ、何者に斯くも無殘に……』と云ふ聲も涙聲、胸は裂け腸も千切る丶許りの悲さに堪へずやありけん死骸を抱へた儘、わつとばかり泣伏しました、並居る親類縁者も皆同様に『何の怨恨があつて斯くも無慘な所業を爲したるか憎みても餘りある曲者なり』、不運な事よと悲歎の涙に暮れて居りますが、茲に不運なるは熊の膏藥賣の才助でございます、下手人は誰れとも分らず取り〳〵噂さして居りますうちに番頭や奉公人が口を揃へて作左衛門其他一同の小作人に向ひ『實は斯う〳〵』と語れば一同『そりや怪しいぞもう逃げて了つたらうか、何しろ早く行て見るが宜から、と勇吉の後へワイ〳〵と村人尾て離家の方へ參りまする、才助は夜の明方何やら母屋の方に當つて物騒しき人聲がするので何事か知らんと戸を明けて出やうとする途端に、當家の伜の勇吉と顔を見合せました 勇『未だ發足になりませんでしたか 才『つい寝過しまして……大分母屋の方が騒々しいやうですが何でございますか、勇『飛んだ騒動が出來致しました、一寸來て見て下され 甲『此奴が怪しいぞ何でも昨夜の仕事は此奴に違ひ……』勇『これ五平そんな馬鹿な事を云ふものでない、默れッ 五『へつ 才『騒動とは何事でございますか私も騒々しい人聲で目を覺したのですが何か變があるのですか 五『野郎旨々惚けたつて、然うは行かねぞ 勇『喧しいッ汝彼方へ行け、蒼蠅奴で……實は昨夜親父が殺されました』と聞て才助は誠と信せぬ様子訝りながら來て見れば、情けなや主人長左衛門は咽喉を抉られて無殘な最期を遂げて居ります、才助唯愕驚いて、暫時物をも云はず茫然として佇立んで居りましたが、漸くあつて『やれ〳〵お氣の毒千萬な、と云ふ中に作右工門づか〳〵と才助の前に進寄つて 作『始めてお目に懸りますが手前は作右工門と申して、當家の親戚の者でございます 才『申遅れて濟みませぬが私は奥州仙臺熊の膏藥賣の元祖熊野傳三郎の子分でございます、御當家にては飛んだ御災難、御愁傷の程お察し申します 作『貴方は昨夜當家にお泊り下すつたそうですが、當家の主人の殺されたのは何時頃か、斯様に無慚な最期を遂げた程でございますから、定めし長左工門は悲鳴を上げたでございませうな 才『い丶え夫れが一向〳〵じませぬ、心得て居れば即座に來て仇を討つべき所であるが、酔酊の上熟酔致し居つたものですから、少しも心付かずに居りました、意趣遺恨か盗賊の仕業か、其邊は存せぬが飛んだ御災難、何づれ御検視を御願ひなさるでござらうな 作『左様でございますども、組合の者が先刻届けに參りました』と云ふ折柄、地方代官松村國太夫手代を連れて其場に臨み、篤と死骸を檢分致し夫れより勇吉並に奉公人共に昨夜の様子を詳かに訊ねました、所が孰れもお祭の事とて遊びに出て居つて宿に居りませぬ、母屋には女子供と主人長左工門が寢て居た丈けだと云ふ、そこで女子供まで一々吟味を致しましたが、一向存せぬ知らぬと許り更に手懸りがございませぬ、然るに奥州仙臺の膏藥賣の才助と云ふ者が斯う〳〵云ふ譯で昨夜當家の離座敷に一泊したとの事、其他に男と申しては一人も當家に寢泊りしたものがないと云ふ申し立て 國太夫『勇吉其方は昨夜自宅に居らぬと申し立たが、左すれば昨夜は何れで泊つた 勇『御意にござります手前昨晩作右工門方に泊つて參りました 國『作右工門勇吉は其方宅に泊つたに相違ないか 作『左様でございます、先程手前に先つて駆付た次第でございます 國『フ丶ム其仙臺の膏藥賣の才助と云ふ者は何處に居るか』と云ふや否や才助進み出で『其才助と申すは私でございます



東京電報

▲宮中御講書始　十日午前宮中に於て行はせらるゝ御講書始の題目は左の如く發表せらる

洋書　アリストーテレス政治史　法學博士　穗積八束
漢書　周易　文學博士　星野恒
國書　古語拾遺天の岩戸の章　猪熊夏樹

▲東宮樺太行啓　平岡樺太廳長官の請願により東宮殿下には本年夏期横須賀より軍艦に御搭乘樺太に行啓あらせらるゝことに決定せり

▲官革兩軍休戰　十日發北京電報に曰く官革兩軍は復た十五日迄休戰を約せり

▲露國の新要求　露國は外蒙古獨立宣言と共に同地を露國の保護國となし一切清國は干渉をなすべからずと要求せりと北京より電報あり

▲革軍公債募集　九日發南京電報に曰く共和政府は一億圓の軍事公債募集に決定し四ケ年据置十ケ年償還利率八歩として發行すべし

▲唐紹怡廣東行　唐紹怡は暇を得て十日上海を廣東に向へり

▲滿洲駐剳軍出動　陸軍省著電によれば旅順に於ける步兵第二十七聯隊、騎兵第二十聯隊及遊防隊若干は七日新民屯に向へり

▲漢口官軍撤兵　八日在漢口川島第三艦隊司令官發電官軍撤兵は六日を以て終了せり

▲撤兵後漢陽　撤兵後官軍一手にて漢陽を守備するは不合理なりとの革軍の抗議により英國領事の仲裁にて漢陽は外國兵にて守備することゝなれり

北京特電

▲欒州叛亂鎭定　欒州の叛亂は既に鎭定し山海關線上下列車は開通せり

▲電報談判謝絕　伍廷芳は袁世凱に對し下の如き電報を發したり「足下上海に來り談判を試むるか又は代表者を派遣するか二者何れかに出でられ電報の談判は一切謝絕す」

▲通信機關協定　官革兩軍の通信機關は一月十五日午後八時迄に協定されたり

上海特電

▲製粉會社燒失　在漢口の東亞製粉會社の倉庫二棟燒失し其燒失せし物品多し

▲西安邦人避難　西安府在留本邦人十八名無事漢口に避難したり

鄉報

●行政整理と司法機關　總督府行政整理に伴ふ官制改革案は來る十五日頃結了の運びに至るべきが司法部に於ける整理方針を聞くに寺內總督は從來の例に倣ひ二審制度を採用し法權撤去後直ちに縮小すべきも對外關係上出來得べき丈を見て遂に其議を見合す事となり今回の刷新は區裁判所には地方裁判所支部判檢事及無能の司法員の減少を爲すと共に以下各裁判所合議の經費の節約を期する費額は正に十五萬圓なりと云ふ

●鑛床調査　總督府にては來年度の鑛床調査は明年度四月一日より開始すべき調査區域は此の程△平安北道△黃海道及平安南道△咸鏡南道（咸興郡以北の全部）△咸鏡北道（鏡城郡以東の全部）△濟州郡の全部）と決定せり

●十二月中の朝鐵收入　昨年十二月中に於ける朝鮮鐵道の運輸收入を見るに旅客十三萬九千三百十人旅客收入十六萬五千百八十圓、貨物收入十六萬五千百八十一圓に達し前年同期に比し八千七百九十九圓に當り、京釜線七千六百六十圓、湖南線四千八百一圓、京義線一萬千百二十一圓、湖南線四千八百五十五圓なりと因に前年同期に比し旅客は四萬二千二百十一人を増し貨物は十五萬六千三百十一圓に比し二萬入千五百六人にして貨物は千八百九十九萬八千斤を増し十五萬二千六百七十一噸を增せりといふ

●京城府の徵稅成績　京城府に於ける四十四年度の徵稅成績を聞くに第一期は家屋稅の四十四圓收稅額一萬七千七百〇三圓收納額千七百四十七圓收納額千五百七十圓、未收納額千五百七十圓にして其の納稅成績家屋稅は五割一分、酒稅は六割六分に當り又た第二期は家屋稅調定額二萬一千六百八十一圓收納額九千五百四十七圓未收納額一萬二千百三十四圓、酒稅調定額五千〇七十圓收納額千七百九十六圓未收納額三千二百七十五圓にして、家屋稅は四割四分酒稅は三割五分の徵稅成績を示し居るが一般徵稅傾向より觀れば府管內に於ける徵稅成績は漸次良好を來しつゝあり尙ほ其の未收納の分に對しては目下五名の府書記各面に出張し滯納處分を勵行しつゝありと

●十二月滿鐵收入　去月中の滿鐵收入は二百十九萬八千八百四十七圓七十七錢にして前年同期に比し一萬八百十三圓を減せり而して一日平均收入七萬九百三十圓に當れりといふ

●大屋長官の說明　鐵道賃率改正に付

十日午前十一時鐵道局長官大屋權平氏は在京城各新聞記者及通信員を其官邸に招待し本年四月一日より實施すべき改正鐵道賃率に就て左の說明を爲したり

抑々現行の乘車賃金は明治四十一年月統監府令第四號を以て公布し同年四月より實施したるものでありますが當時の朝鮮鐵道の賃率は如何なる狀態であつたかと申しますと御承知の通京義線は元陸軍の經營にて臨時軍用鐵道監部に於て制定したる處の三錢比例法を以て旅客の便乘便載を許して居りましたのであります而して京釜線の方は元京釜鐵道株式會社の制定したる處の一八厘の遞減法を適用して居りました之の如何の如く賃率の差違が甚しくしてをも如何に統一するかと云ふことは當時の問題であつたのであります依て當局者に於て深く考慮を費したる末現行制度たる距離遞減法を取り以て母國より移住旅行者を著しく誘引奬勵する必要あるを認め爾來實行して今日に及べり而して其の賃率は我內地の國有鐵道と比較して見たならば高いと云ふことは論を俟たざる處であるが之を南滿洲又は臺灣の鐵道制度と比較して見ると決して高いと云ふことは言へないことと信じます南滿洲は我國の勢力範圍內と云ふのみにして我國の領土ではありませんし經營も亦私設會社であります から之は別として臺灣鐵道と比較して見ると我國の領土に歸して十六年も經過して居る今日で其の採用してある賃率は五十哩迄三等賃率（一哩に付三錢）五十一哩以上百哩迄（同二錢七厘）百一哩以上百五十哩迄（同二錢四厘）百五十一哩以上二百哩迄（同二錢一厘）二百哩以上（同一錢八厘）二等は三等賃率の三割增一等は三等賃率の十割增と云ふ遞距離遞減法を實施して居るのでありますが之を當局の現行賃率と比較して當局の方が低率であると云ふことは一目瞭然たる次第であります又南滿鐵道の方を觀ても同鐵道は距離比例法を採つて居つて其の率は一等一哩に付六錢七毛五糸二等同（朝鮮の三等に當る）二錢七厘三等同一錢八厘之も亦當局の方が低率なりと云ふことを斷言し得る次第でありましたから茲に於て現行賃率を制定した次第でありまして而して顧つて當時此の鐵道を經營する收支豫算は如何なる關係であつたかと申しますれば私の前任者にして而も尊敬する處の前統監府鐵道管理局長官古市博士は四十年度より京釜京義線を通じて之を營業制度となすに當りて此の鐵道經營上必要として別表に示すが如き案を政府より二十三議會に提出し議會の協贊を求め四十年法律第十五號を以て公布せられたる處の韓國鐵道の收益勘定欠損補充に關する法律を公布して當時の韓國鐵道の收益勘定に於ける欠損を一般會計より之を補充する見込を以て四十年度より向ふ五ケ年度間は朝鮮の鐵道收益を見る能はざるのみならず其の經營に對して政府は一般會計より之を補充して以て事業の經營を爲さねばならぬと云ふ狀態でありました然れども一面より考慮するに朝鮮の縱貫線たる京釜京義本線は譬へ一般會計より欠損の補充をなすと雖ども尙軍事上及交通上必要なる相當の設備をなし以て鐵道の目的を遂せねばならぬけれども支線たる京元線なり若は湖南線を經營するに當りて尙斯くの如き一般會計より欠損の補充をなさざれば經營が出來ざるか否と云ふ問題が起つたならば朝鮮に於ける鐵道の延長に付て母國民衆の把握を招き朝鮮統治發展上或は支障を生ずるが如きことなきやと云ふことは當時憂慮した一ッであつたのであります依て之は是非早く收支の償ふ樣な方法を採らなければならぬと云ふことは統監始め當事者の顧慮した一事項でありましたのであります幸にして四十一年に至り賃金改正の場合にも之を參酌したる次第でありました當初の別表中に示したるが如く豫算に基き一般會計より受けた金額は非常に尠いもので四十年度四十一年度を併せて計金二十五萬八千餘圓の支出を仰いだのみで四十二年度は少々なりと雖ども收益を見四十三年度に至りて定の如く三十三萬圓の收益に向今後其の益の增加する見込に到つたのであるが茲に於て今回の賃率改正を一般年早く遂げたきと云ふ考もありましたが京元及湖南線建設工事の繰り上げに要する資本の利子等が朝鮮總督府特別會計經理の上から如何樣になるか四十三年度は如何と云ふ考もあり遂に明年度より實施することゝ決定せし次第であります即ち現行賃率に付ては諸君の中にも稱々御意見もあり又商業會議所の意見も度々承知して居りましたが當局に於ても之を決して等閑に附したる譯でもなく如何なる賃率が適當であるかと種々研究も稍々統計を取りて常に注意をしてありましたが此の賃率問題たるや前に述べたる如く一方經營の豫算と關聯する譯であるから之は容易に斷ずべき問題でないと信じ深く考慮しつゝあつたのであります然れども朝鮮目下の狀態たるや稍々る方面に於て朝鮮人を指導し經濟的に又政治的に進步發達せしむるの必要に迫られ殊に產業の奬勵と云ふことは新領土の開拓上緊急なる必要あると信ずるを以て豫算の上から觀れば現行賃率を低減するが爲に減少する收入と低減に依て鐵道利用率增加の爲に得る收入とを彼是參酌して減收は免れざる處なるも叙上の事情なるに依り斷じて今回の改正を遂げたる次第であります其の改正賃率は三等賃金が距離の遠近に拘はらず一哩に付金二錢である二等賃金は三等賃金の十五割增と云ふ割合であります賃金の七割五分增一等賃金は三等賃金の十五割增と云ふ割合であります之が果して朝鮮人の經濟狀態に適當であるか否と云ふことに付ては稱々御意見もあることゝ存じますが當局に於ても賃率問題と云ふのは經濟狀態に絕對的に適當なるや否と云ふことは定め得べきものでなく當局の都合と相對的に定める問題と信じ而して朝鮮人及鐵道の現下の狀態に於ては此の二錢の距離比例法を以て比較的適當なる制度であると云ふことを信ずるのであるが尙參考として別紙の如き現行賃率と改正賃率との比較をした表を差上ます此の二錢比例法を利用するもの、利害如何と云ふことを調べて見ましたが三百二十六哩以上の距離を旅行するものに對しては從來に比し多少其の賃率を增加するに至るべきも從來の實驗に徵するの三百哩以上の長距離旅客は全乘客のにすぎないのであるから之を四十分の一に過ぎないのでありまして其の四十三年度の中の乘客が二百二萬人であります今回の賃率低減の利益を均霑する次第であり乘客二百九十萬人の多數はありますから今回の賃金改正は多數の旅客公衆に對し大に利便を與ふると云ふことを確信して疑はざるものである尙歐米其の他の鐵道旅客賃金表を御參考の爲め取りますから御一覽を願ひたいと思ひます

終りに臨みまして一言申上げて置きたいのは鐵道の賃率たるや常に世の進運經濟狀態と相關聯して行くべきもので當局の賃率とすることゝなりましたがありますから今日二錢の比例法を以て今後世の進運變遷と共に如何なる賃率が適當であるかと云ふことに付ては當局に於ても常に研究調査を怠らぬ次第であります尙諸君に於ても充分御研究を煩はしたい御高見は他山の石として敬聽いたしまする次第であります

等級	距離の遠近を問はず
一等	一哩に付五錢
二等	三錢五厘
三等	二錢

比例法改正賃率

●各銀行會社營業成績（其五）

▽朝鮮商業銀行▽　明治四十四年上半期

遠山支配人の談　四十四年下半期に於ける朝鮮商業銀行の營業成績を聞くに預金總計七十四萬三千七百七十一圓九十四錢內定期預金十二萬三千百八十二圓九十八錢、當座預金四十九萬四千百五十八圓七十九錢、小口預金十萬八千三百六十三圓八十八錢、雜種預金一萬八千〇六十六圓廿九錢にして又た貸出總計九十八萬一千三百六十三圓三十六錢內貸附金三十二萬九千〇五十五圓五十三錢、當座貸越四萬一千百八十六圓三十七錢、割引四十八萬六千三百二十八圓七十四錢、荷爲替四百十五圓五十五錢、雜貸出十二萬四千三百七十七圓十七錢なるが之れを前年度即ち四十三年度の同期に比較するに預金貸出の各口座共に大体に於て二分乃至三分の增額を示し就中割引手形の如きに至りては五分以上の增加を來しつゝあり最後に當半期の利益金は總計二萬三千百九十三圓七十錢五厘にして前年同期に比し約一割の增額を示せりと

●京城府の救恤件數　明治四十四年一月より十二月末日迄に至る京城府廳取扱に係る行路病死者其他の鮮人救恤者數及種別は行旅病死男五九女二行路病者病院收容男一一女三、行旅病者全治退院男四、行路病者入院中死亡男六女二、救助金下賜救護者男七女一溺死者男三女一、幼兒死体遺棄男三女三、遺棄兒男五女一、迷兒男四、孤兒男四變死男三　合計男一〇九女一三總計一二二名なるが府廳にては未だ此等救恤者收容の所屬機關のあるなく臨機の所置を採り居るを以て取扱上不便を感ずること尠少ならざれば目下府所屬の行路病者收容所の如きものを新設せんと考案中なりと

●各道內務部長官會議　各道內務部長會議は來る十五日より十九日迄五日間司法部樓上に於て開會の由

●東拓現在所有地　昨今東拓會社の管理に屬する土地は出資地（舊韓國政府時代に拂込みし第一回の分及び總督府となりて拂込みし第二回の分）七千四百十六町七反五畝十七步、借地（舊韓國政府出資豫定未拂込みの分）八千八百九町六反四畝二十六步、買收地一萬五千六百十六町二反四畝三步合計三萬一千八百四十二町六反四畝十六步なりといふ

●韓一銀行株主總會　韓一銀行にては來る廿八日午後一時より鐘路通り朝鮮人京城商業會議所に於て株主總會を開くべしと

●漢城銀行株主總會　漢城銀行に於ては十六日午後三時より明月館に株主總會を開催すべしと

●京城商店々員表彰　京城各商店に於ける店員の表彰は來る二十日頃商業會議所內に於て行はるべく尙今後は每年之れが表彰を擧行する由

●商議役員會議決　既報京城日本人商業會議所役員會は九日午後一時より同所樓上に於て開會定數役員の外仁川より奧田商業會議所會頭鹽田書記長出席し米穀移入關稅撤廢問題及び右運動に就き東上委員選定の件并に道路擴張問題に就き協議したるが結局米穀移入關稅撤廢問題は移出稅撤廢のことに決定せるを以て今後所期の目的を貫徹する迄は飽迄運動を繼續すること次に右運動に就ての東上委員選定は委員其の人は決定せざるも二十日頃二名の委員を東上せしむること又道路擴張問題は從來の通り益々運動に努むることゝし四時散會したり

●商工調査會開會　京城商工調査會は來る十五日午後一時より日本人商業會議所に於て開會のことに決せり

●大田電氣開業　大田電氣會社は豫定の通り去る一日より營業を開始せしが結果良好なれば十日盛なる開業式を擧行すべしといふ

●煙草耕作地の增加　最近の調査によれば朝鮮全國の煙草耕作の課稅免許人員は總計三十八萬六千四百十八人にして其稅額二十三萬三千四百八十七圓に達し一昨年末より五萬三百十四人二萬九千六百六十四圓五十錢の增加なりと云ふ

●普通學校長會議終了　八日來京畿道廳に於て開催中なりし本道各普通學校長會議は九日終了せり

●中學校生徒父兄會　總督府中學校にては學校と家庭との連絡を取る爲め父兄會開催の意ありしが十日午後二時より其の第一回を開催し引續き十一日も同時刻より開催するとのことなり尙前記兩日に不參の向きは十三日午後二時より同樣開催するに付可成く多數の出席を望むと

●漢城倉庫殘留品　漢城共同倉庫に於ける客年十二月末日の殘留品數玄米外十六點にして總數一萬二千五百六十一個同評價額十七萬〇九十五圓四十一錢なりと

●教員講習の始業式　既記の如く十日午前九時半より當地高等普通學校に於て各道講習生八十名の始業式を擧行す

●佐々木課長の出張　土地調査局の佐々木書記官は十一日出發忠淸南北道に出張すべしと云ふ

●木尾辯護士の歸京　辯護士木尾虎之助氏は昨歲末歸東中の處九日夜歸城す

●鐵道局員の出張　總督府鐵道局技師堀內智三郎氏は六日付を以て南滿鐵道會社線路へ出張を命ぜられ鐵道局參事加藤正美氏は七日付上京を命ぜらる

●仁川夜學校の女子部　私立仁川夜學校にては來十四日より女子講習部を設け卒業期を三ヶ月とし習字作文算術修身の各科に付て懇切に教授する由にて會費は一ヶ月五十錢なりと

●仁大間の新航海船　北濟輪船公司の新造濟通丸は本月六日大坂より大連に回航され九日より芝罘、大連、仁川間の定期航海に就きしが同船は總噸數千百三十九噸登簿噸數七百六噸にして長さ二百二十呎、深さ十七呎幅三十二呎、吃水十二呎半あり公稱馬力八十ノ積載量三千五百噸一等室五定員十人、二等室一定員六人にして一日の石炭消費力十二噸、船員三十名にして船長は加島熊太郎氏なりと

●海女移住漁村計畫　三重縣志摩郡和具片田の海女百五十名を朝鮮沿海方に移住せしめ漁村を作らんが爲め同縣海女移住團体準備出張員平賀重之助氏は七日釜山に來り八日長鬐串浦附近に赴けり

公人私人

▲上野榮三郎（審美書院取締役）九日投宿巴城館
▲新庄清一（商船會社仁川支店長）同出發釜山へ
▲船越光雄（春川種苗場長）同春川へ

▲京城手形交換高▼

一月	金高	枚數
十日	一九一、〇四〇、二三〇	五二四

▲治外法權▼

無いが異見の總仕舞、總督府當局も、此頃は大分經濟難に罹り、從來の誤れる經濟政策から少しつゝでも眼が覺めて來たのは結構な事だ▲冗員の月給を節して產業の奬勵に向ける、移輸出稅を廢する、鐵道の乘車賃金を改正して朝鮮人に滊車の利用をさせ、同時に收入を增加せんことに勉める▲道樂息子にも我儘息子にも後悔の時がある、改心の時がある、而して我總督府當局にも今や後悔改心の時が來たものと見ゆる▲閑話休題、鐵道局長官大屋の改正賃率採用に關する說明は別項揭載の如し、ソコで記者は平に考ふるに、改正賃率なるものは、之を案出するに當局の方には隨分苦心もあつたらうが、其改正と云ふのも、現行のソレに比しての話であつて、決して理想的と云ふことは出來ぬ▲成程三等の一哩が從來の三錢から二錢になつた、之は三分の一減だから、大分發展の積であらうが、重に三等の客たるべき下級鮮人の爲には、まだ〳〵禁止率たることを免れない▲見よ、京城水原間が二十六哩で、五十二錢ではないか、五十二錢出す位なら、下級鮮人乃ち日收十五錢か二十錢の地方下級鮮人はタワイ煙管で、滊車と並走する▲記者の見を以てすれば、極めて少數な一等二等客の賃金などの改正はドーでも良い、只だ極端に値下げをして、民度に合ふようにすべきは三等客のソレだ、而るに今度の改正率なるものを見ると鮮人に對しては矢張禁止率だ、大屋長官たるもの實施前に於て尚再考三考を乘すべしだ▲大屋曰く、賃率の低下は本官の望む所なれど、之には鐵道局の樣の都合もあれば、サウ無暗には出來ずと、成程サウかも知れぬが、ソンなら却へつて鐵道の經營費を減じ、三等賃金低下の費に當てたらば良からう▲詳細は今茲に言はぬが、朝鮮鐵道には冗員が大分居る、其證據は一哩割の俸給額が、內地のソレに比しても、世界のドノ鐵道に比しても、馬鹿〳〵しく多い▲次は石炭其外諸物品の購入及び保存方が惡い、で若しも冗員を悉く淘汰し、物品の購入保存法に改良を加へ且つ從事員は適所に適材を置く樣にすれば、經營費は必ずや現在の三分一を減ずる事が出來る▲兎角我役人共の仕事には出づるを計らずして、入ることのみを考へる風がある、寺內總督たるもの得意の英斷を以て鐵道の經營費に大削減を加ふべしだ。

●鴨綠江の橋と氷

(五)　天眞生

此邊より線路の勾配均整せられず右に左に車體の動搖すること恰も小舟に乘りて荒海に出でたる如し、尤も腰掛け居ては消化不良に陷るべく然りとて運動場の設けなき滊車の事なれば勾配の不均整を利用して不足せる運動を補足せんが爲めの親切からとあれば不平を申上ぐる筋合にあらず却つて到れり盡せる注意の程を感謝すべきなり、然り乍ら古の人も言はれた如く過ぎたるは猶及ばざるが如しとかや、僕をして言はしむれば寧つて思案に能はぬ格なり……イヤ御親切はヨーク譯つて居りますので………中和驛舍の軒に氷柱す太きこと長きこと清人の天秤棒の如し、鮮人七八名を迎へて滊車は力浦に入る　六歳斗りなる男の兒のマント着たるが一人降り立つ風痛く吹きてマントの裾を煽る、後姿の眼に寒し

……マント煽る風眼に寒し滊車の窓

窓前の山々間々翠松の茂生せるを見る其禿げたる山の土の色血の如し、驛の附近に大なる煉瓦製造所ありと聞きて其煉瓦の色美しかるべきを想像す、驛を距る幾十ならずして我國の歴史に深き緣故を有する大同江に達す、江水全く氷し、降る雪の氷に白くして渡渉する人の影も見へず僅かに北岸に近き所に鮮人の一人二人堅氷に穴を穿てるを見る、魚を漁る爲めなるべし

白魚は氷の子なり色に見よ

なんて理屈を捏ねつゝ窓外に眼を放つ鐵橋上より北に迴かに平壤あたり高丘の上に高樓を見る、他に問わば曰く遊廓と答へし人も問ひし人も唖然として大笑す其顔には生氣動く不思議なるかな、平壤驛に着す外人二名は此處に下車す、乗降客稀にして驛内又蕭條として冬の色を現す、婦人の蹲踞て犬に餌を投げつゝあるが眼立つ、洋婦人一名乗込む宣教師か學校教師か、給仕を呼んで茶を命じて持參せるパンを食す、僕は此を見てフト當日滊車中の晝餐時に現はれたる珍象を思ひ出したり、記は其當時に戻る、京城ホテルと襟章ある洋服したるボーイが正札附の料理品目表を持参する日本人も清人も一寸斷つて置くが此清人は絹ガスリの羽織衣類して薩摩下駄穿き巧に日本語を繰りたれば恐らく清人と看破したる人は非ざるべく僕の夫れと知りし次第は後に鮮なり)何さか彼さか大に西洋がつた注文をしてウヰスキー、ブランデーを呷つて居る内に彼の洋人の二名は世話に碎けてライスカレーと洒落て居る日本人の食ひ相なものを洋人が食ひ洋人の食ひ相なものを日本人が皿と洋刀をガチ附かせて喫ふ、少しく羞耻を感じき、而して今又此洋婦人がパンを持參し茶を命じて晝餐をするを見て益々我國人に通有の旅行を一種の贅澤と心得へ外見を衒ふの惡習俗を排するの要を感じたりき、西端に着す、氣温漸く下降して室内寒暖計六十度に降る

●樓主娼妓を誣告す

▽三桝樓主の惡事露顯

新町遊廓大和新地三桝屋樓主鬼婆林ミヤ(四三)が其筋に引致さる可き罪狀を聞くに彼れミヤは大和新地に開業する以前明治町一丁目に小料理店營業當時より抱妓を虐待し或は道ならぬ手段にて內地より妓を抱へ來ると抱妓等の多くは彼が虐待若くは賣淫を强ゆるに堪へ兼ね他に住替へ或は逃亡する等屢々なるが其筋に屆出る度毎に逃亡の際必ず衣類其の他物品を竊取したる旨指名告訴を爲すが常なりしも其の都度警察署にては手數を掛け調査の結果は多く盗難被害證據薄弱なりしと然るに昨年十二月三十日午後七時頃三桝屋抱妓横濱市平沼町三丁目生れ外川マサ(二七)が虐待に堪へ兼ね逃亡せしに其の屆出と同時に例に依つて臺所の押入れにありし小豆色縮緬五三の桐女羽織地反物一反を竊取逃走せし旨指名告訴を南部署に提起せしより捜査及盗難臨檢を長野刑事擔當せしが同刑事は被害者ミヤが平素の行動及逃走娼妓に對する平素の態度等に付面白からぬ風評を耳にし居たる事とて逃走娼妓外川マサが僅かの反物を竊取したりとは如何にも信じ難く警察を利用せん爲め指名告訴したるものと判斷し岸佐藤の兩刑事と共に內偵せしに如何にも不審の點あれば司法主任に斯くと報告し三桝屋の承諾を得て同家の家宅を捜索す可きの許可を得本年一月七日午後三時頃同家に出張物品調べに着手せしに被害品なきのみならず正に外川の竊取したるに相違なき旨斷言せしが三刑事捜査の結果十二月三十一日午後十二時頃被害品と稱する反物は外數點と共に本町一丁目裏通り質商南部太郎方に入質しありて全く外川マサが誣告したる犯罪なりし事發覺して目下取調中なれば事件の進行と共に彼れの惡行を報導せん

●ワン〳〵の病院

南米倉町の高處に在る京城家畜醫院を訪ふた際主菊村聚氏曰く

人間と異つて私方の患者は頗る面倒ですよ何しろ相手が相手ですからね計畫はしてゐるが未だ一般の入院を許すまでに設備が整頓して無いので往診若しくは當院に連れて來て貰つて治療するのです診察料ですか大抵五十錢內服藥が十五錢注射料が二十五錢乃至三十錢です從來重に取扱つたのは犬で病氣の種類は普通瘟熱と云ふ産後敗血症で丁度昨年の十二月十三日に高田家の犬が之れに罹りましたが之れは熱病であるのに四肢や腹部等が冷却して腰髓中樞を犯しソレから脳脊髓を犯して遂に後体痲痺を起して倒れましたが注射後三十分で起き上がり全快しましたソレから肝臓病から來る腹水病や変尾斯若しくは産後に起る子宮出血デステインパー卽ち犬温熱等です此の犬温熱は朝鮮に頗る夥だしいこれは大陸的氣候卽はち氣候の變化が烈しいのが原因であるらしいが實際の原因は不明で世界中未だコレと云ふ治療法が見出されて無い此の症狀は第一呼吸器系統を犯かすので此の時には盛んにチバル痰が出る帯黄灰白色とでも云ふべき色で頗る惡臭を放ちます(つゞく)

●食道樂の再建立

▽亭主は天眞樓のたきよ

壽町食道樂が不德義極る行爲のみなし遂に破産して以來諸道具一般債權者の手に歸し競賣に付せられし事は既報の如くなるが今般南山町天眞樓仲居頭たりし山口縣生れ佐々木ヒサが名も其儘食道樂として同跡にて飲食店營業願中の處十日付にて許可せられしを以て同日より開業す可しと何分とも御贔負をと頼まれもせぬ提灯點すこと如件

●榮次千里の關係

▽縛らしたり差入したり

元京畿道廳雇員奥村千里の官金横領事件は十日午前十時より京城地方裁判所刑事部法廷に於て裁判長塚原判事藤原兩陪席の係り境檢事立會の下に公判開廷せられたり被告奥村は龍鐘として法廷に立ち逐一犯罪事實を自白し濟みませんと申立て藝妓榮次とは大連正金銀行支店に在勤當時榮次が東郷町の玉突屋の女給仕であつた際互にかれ合ひました榮次の親は城津港夏目御漕店の雇人だそうですが目下は榮次より辨當の差入を受けて居ますが感謝に堪へませんと涙を流し居たり取調終決して來る十二日言渡に決し閉廷

●沖津等の監獄送

▽恥を曝しに京城迄

仁川水産會社專務取締役沖津戸十郎同會計芹川傳藏に對する刑事被告事件は既報中京城地方裁判所仁川支部に於て戸十郎は懲役十ケ月傳藏は同六ケ月に處せられしは已報の如くなるが被告兩人共不服を申立て控訴せしを以て兩人身柄は一兩日の中京城監獄に護送せらるべしと

●若遊三詐欺取財

▽として訴へらる

當地浪花館にて興行中の落語家若遊三は北海道函館區恵比須町安直亭內立花圓好事大久保喜太郎なる者と本年正月に同安直亭に於て興行を稗約し金三百七十五圓の手付金を取り乍ら同地に行かず手付金の返還を請求せられ乍ら返還せぬとて立花圓好より南部署に訴へたるより目下若遊三を取調中なりと

●三桝樓主拘留さる

▽虚僞の申告を成せし爲

別項記載の大和新地三桝屋樓主林ミヤ(四三)の誣告事件は被害者外川マサ(二七)が不在にて告訴の提起なき爲め證據充分なるも警察署にては林ミヤが虚僞の申告を爲したるものとして拘留五日に卽決されたり因に外川マサ所在判明して告訴せば檢事局に送られ懲役刑に處せらる可しと

●賭博中を御用　九日仁川新町二丁目永石方に於て喜來てい(三八)和田武右衛門(三八)梅垣嘉七(二四)菊川喜太郎(四八)山內宇三郎(四八)の五人が賭博中取押へられ卽日仁川署に於て喜來ていは罰金二十圓其他は各十圓の科料に處せらる

●傷害犯人の處刑　原籍廣島縣生當時仁川寺町二丁目西田方內野綱吉(二一)が田中五郎を出刃庖丁にて傷害し其筋に捕へられしは已報の如くなるが九日仁川區裁判所に於て懲役二ケ月に處せらる

●中券の獨立新妓　山口縣都濃郡德山町生れ長谷リウ(二四)は中券番より獨立藝妓として一龍と名乘り御贔負にと現れたるがナカ〳〵美形にして氣前の灑泊りした所が賣物なりと

●龍山繁榮會抽籤　龍山繁榮會の大賣出し景品券抽籤は十日於龍山元町二丁目本願寺に於て施行

●訂正　一月一日發行の本紙廣告欄仁川石炭商組合の中に秋田商會及び田林支店を脱したるを以て茲に訂正す

●演藝だより

▲壽座　若島屋十一日の狂言は前夜通り『四國騒動猫化犬の仇討』なり

▲歌舞伎座　改成義團十一日の藝題は『親と親』七幕にして壽座同様大入の御禮として一等八十錢二等六十錢三等五十錢四等三十錢に大割引する由なり

▲浪花館　三遊亭圓若一行にて好人氣

▲御成座　綠會十一日の藝題は『浪の寄邊』なりと

花柳界だより

▲淸水席の鶴羽は同席の一奴と箆棒に交情が好いと云つて腹を立てる人は一人も無い▲新江戸家の二三龍は此頃浪花館の事を寢言に言つてるが揀翠の右女助を見ろ、目下豫審中だから公表するの自由を有せずだ▲松葉亭の時松は以前好きな酒を飲み過ぎては藝人狂ひなぞ行つて首も廻らぬ借金に危ふく女郎に賣飛ばされんとしたを松葉の主人に助けられて以來大に改心して眞面目に働いて居るとは芽出度し▲同家の照羽は廣島平中券から此方へ來る早々眼病に罹り昨年十月迄は物にならず主人も頭痛鉢巻の体なりしが全快後の十一月からは一二等を爭ふフントウ振りは目覺ましい▲淸水席の政彌は一番飲んだら頗る陽氣で面白いが淺ちやんの惚言が玉に瑕▲井門の鶴吉は竹山さんと本統になつたら支店を著るワと逢う人毎に嘘らしく思はせ振を申して居る▲揀翠の靜子は何年經つても『十五ですよう』と夫れも好からう▲同家の師子曰く『見た許りで腹が痛い新聞記者と關係があるとは隨分だワ、三ッ巴の一人にね』▲淸水席の權助は二日の夜大に醉拂つてベランメエを連發し主人と衝突して同家を出で目下雲隱れの体と御座い▲玉家席仇吉の妹紫玉と奴は大に腕を上げたり▲由良家席の小奴は十二月の席順も一等なりしが曰く『京城の客はんは駄目だす、三十圓の一度限り、又と旦那取りはしまへん』▲蔦家の吉彌は理由ありて酒と男を斷つたと云ふが酒の方は兎に角男の方は當には成らない▲玉家の伊達子は目下旦那を探して居るが條件に曰く『男が好くて金持ちで優しくつて強くつて云ふが儘に言ふ事をキイて呉れる人』(雨雀)

平民文庫

▲來る十三日(土曜日)黄昏より新春句會相催し候同趣味に遊ばるゝ人々等の御光來を祈る、胡桃でも焼いてチビリチビリが出來れば幸甚と存候(西大門●鐵道官舍保母方野崎小蟹)▲近頃面白いた催し鳥天狗の嘴を尖らしてれ伺ひ致し度存候(小僧)▲京城日報は盛んに讀者の射倖心を挑發すべく試みて居る、前には捲取紙の寸法を懸賞する今度は驛の乘降人員に懸賞する餘程博奕染みた事が好きなんだナ、此次は一つ花月の光菊の腋の下の毛の數でも懸賞したら麼うだい(與可樽)▲夫れは不可ねよ初手から一等は吉野君に取られると定つてるものナ(小僧)▲龍山櫻町角にはオバケ見たいな女一人で客相手の商賣勇々自然主義の實行あり其筋にては知らぬや(道中小僧)▲去る七日の午後七時頃龍山桃山遊廓で永登浦の巡査なりと自稱する三十歳位の和服姿の男一人と多數の素見客と大立廻りを初め三十分位格鬪の末巡査と稱する男は袋叩きにされ低頭平身詫入つて將來を戒められて居るのを見受けたが何か仔細のある事らしい(實見生)▲ウンデレ亭若遊三を大層可愛がつて居る髪結女れ靜の發起で京城券の藝妓連が浪花館の總見をする相だ他人の情夫の顔を見に手花で見物をする姐さん連のた氣の好さ左樣思つて見れば氣の所爲か皆さん大分鼻の下が寸伸びですね(箱屋の一人)▲ト思ふのは大間違で實は彼のれ靜は姐さん逹にア、云ふ男をケシ掛ける結ぶの神だ(小僧)▲鍋道樂の蛤鍋をヂワ附せて扨シンミリと更けて行く冬の夜の寢覺を味ふ所に戀の嬉さは有ものだ(人の子)